

2022年8月3日
 千代田化工建設株式会社
 総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

**2023年3月期第1四半期決算説明会質疑応答要旨
 (2022年8月1日開催)**

2022年8月1日に開催致しました、2023年3月期第1四半期決算説明会(電話会議)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	【完成工事高】 完成工事高の通期予想に対する進捗率は15%であるが、計画通りなのか。工事進捗に影響はあるのか。	第1四半期は大口の資材費等の購入等がなかったことから、コスト面の増加が少なく、会計上の工事進捗がやや低めに抑えられたもの。第2四半期以降は、工事が本格化することに伴い、会計上の工事進捗が上がってくるため、通期予想に即した完成工事高の積み上がりを見込んでいる。
2	【完成工事総利益率】 完成工事総利益率が通期予想の7%を上回る8.6%となった理由は。	完成工事総利益率が通期予想を上回っている主な要因は、一過性のプラス要因として、エネルギー分野の特定案件において損益改善が寄与したことによる。 第2四半期以降は完成工事高における大口案件の比重が高まるため、完成工事総利益率は弱含む可能性がある。
3	【資機材価格・輸送費の高騰の影響と対応】 現状の価格高騰の状況と千代田の対応状況について、完成工事総利益率への影響という観点で教えて欲しい。	資材費・輸送費の高騰に対しては、現状を鑑みて一定の予備費でカバーしているものの、引き続き、大きな変動が見込まれるため、顧客、パートナーと協力して、遂行案件への影響をミニマイズしていく。 新型コロナウイルス感染症拡大の影響が絡んでいる場合には、スケジュール、コストの影響について顧客とフォースマジュールの枠組みで協議していく。
4	【カタール LNG 後続案件(NFS)の受注見通し】 受注見通しの状況・タイミングは。	先行するカタール NFE の拡張であり、当社はカタールで一番多い実績を有しているため、当社の強みが活かされる案件と考えている。一方、ウクライナ情勢・コロナ禍の影響により資材費・輸送費が高騰しており、リスクを確り分析して見極めたうえで慎重に対応していく。

#	質問	回答
5	<p>【エンジ・プラント業界のビジネスの在り方】</p> <p>エンジ・プラントビジネスの先を見据えて、リスク・リワードの改善の視点から、取り組むべき課題についてお聞かせ願いたい。</p>	<p>エンジニアリング業界では、近年、プロジェクトの大型化、複雑化、長期化により、プロジェクト遂行におけるリスクが非常に大きくなり、その結果、業績が不安定となる事業環境の是正・改善が大きな経営課題となっている。</p> <p>顧客は財務体質が強固な国際・国営石油資本である一方、コントラクターは、顧客に比べると財務体質が相対的に弱い。特に LNG の契約はランプサム(固定金額)が多いので、例えば建設途上でのコスト上昇など、マーケットリスクに晒されており、このリスクをいかに回避・最小化するか、リスクマネジメントの徹底に取り組んでいる。顧客に応分あるいは一定程度のリスク負担をしてもらいながら、コントラクターが EPC の経験・強みで顧客に貢献していくことが理想的な姿と考える。</p> <p>プラント建設における当社の優位性は設計、技術力とプロジェクトマネジメント力にある。技術の千代田化工としての強みを生かし、実績に裏付けられたプロジェクトマネジメント能力を総動員し、新たな付加価値を顧客に提案することで、利益とリスクを適正に分配し、相応なリスクマネジメントができる契約を目指したい。</p> <p>プラント引き渡し後の保守・運転などの継続的なビジネスについてもデジタル・AI を利用して参入を進めている。国内案件ではプラント完成後、長期にわたる保守契約を受注しているケースもある。</p>

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。